

令和 6 年 6 月 6 日現在

機関番号：84604

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2021～2023

課題番号：21K20061

研究課題名（和文）近代における日本人産婆の越境実態の検証―渡韓産婆の事例を通じて―

研究課題名（英文）A study on the transboundary reality of Japanese midwives in modern era - through the case of midwives crossing into the colonial Korea -

研究代表者

扈 素妍（HO, SOYEON）

独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所・企画調整部・アソシエイトフェロー

研究者番号：00908204

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、近代における日本人女性の越境の状況とその特徴を確認するために、免許さえ取得すれば、他地域でも活動することができた産婆に着目して、韓半島に越境した日本人産婆たちの活動を明らかにした。さらに植民地朝鮮期以前の韓半島に越境した日本人産婆の活動についてその法的基盤や、労働環境などを解明し、東アジア近代史・衛生史における新しい知見を提示した。そして、植民地朝鮮における産婆活動の分析を通じて近代東アジア衛生史の中で女性衛生専門家の有り様を究明し、彼らの役割を植民地社会の中で位置づけることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、越境者社会と原住民社会、また、植民者社会と被植民者社会の出産に介入し、自らも越境者として生活する女性労働者として日本人産婆を、近代東アジア史の越境実態を理解できる新しい分析軸として提示した。その上、これまで研究が少なかった、女性越境者として産婆の有り様を確認し、近代における女性の生き方の多様性を捉えて、その特徴について考察した。そして、植民地朝鮮期以前から植民地期まで韓半島に越境した日本人産婆の実態を明らかにすることで、今後、出産の場に関する研究を東アジア全域に拡大し、近代東アジア衛生史の問い直す土台を築いた。

研究成果の概要（英文）：In order to confirm the situation and characteristics of Japanese women crossing the border in modern times, this study clarified the activities of Japanese midwives who crossed the Korean peninsula, focusing on midwives who could work in other regions as long as they had license. In doing so, this research led to new discoveries about women's lives in modern East Asian history and the history of hygiene. The study also analyzed the activities of the Japanese midwives in colonial Korea and reread the history of sanitation in modern East Asia with a focus on female sanitation specialists. Moreover, by clarifying the actual situation of Japanese midwives who crossed the border from the pre-colonial Korean period to the colonial period, this study established the foundation for expanding research on the place of childbirth to the entire East Asian region and for reexamining the history of modern East Asian.

研究分野：近代日本と植民地の衛生・ジェンダー史

キーワード：産婆 近代 越境 韓半島 植民地朝鮮 出産衛生 日本人女性

## 1. 研究開始当初の背景

今までの先行研究では、植民地朝鮮という地域内の日本人と朝鮮人の政治関係が、地域的に日本本国と植民地とに分離して、もしくは植民地の日本人社会と被植民社会とが分離されていたかのように分析するものが多かった。その上、日本人が植民地社会の権力を持ち、被植民社会は一方的にその影響下にあったというイメージが支配的であった。しかし、植民地朝鮮という地域内の日本人と朝鮮人の政治関係はより多様な場面で現れる。本研究は、その様々な場面の中で、人を産む、また、人が生まれるという人間社会の基礎になる場面、すなわち、出産の場の実態を明らかにすることで近代東アジア衛生史の問い直しを試みる。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、植民地という地域内の日本人と被植民者との政治関係〔ここでの政治関係とは生権力における身体政治を意味する〕究明し、日本史/植民地史として分離されてきた東アジア近代史を築き直すため、まず、近代における日本人産婆の越境の実態を探り、近代東アジアの衛生史を問い直すことである。特に韓半島へ渡った産婆の状況とそこでの労働環境、生活状態の検討を通じて検証することを課題とする。そのため、当時の行政側の公式記録から、メディア資料、引き揚げ後の回顧録などまで幅広く用いて、多角的な分析を試みる。この研究によって、東アジアの近代史における女性越境者という新しい分析軸を提示し、その上、越境者産婆の活動を通じて韓半島の女性生活及び衛生状況を究明し、東アジア近代史・衛生史における新しい知見を共有できることを期する。

## 3. 研究の方法

まず、産婆の渡韓に関する地政学情報の収集及び整理した。『統監府統計年報』の人口・衛生の項目に表れる、産婆の数と、当時韓半島へ住んでいた日本人人口数のデータを集めて整理しながら、産婆たちの分布と日本人人口の推移を分析した。さらに、植民地化される前の韓半島で活動した日本人産婆の活動根拠を確認するために、統監府の機関紙であった『広報』を検討した。そして、『京城日報』『京城新報』『朝鮮時報』『釜山日報』などに乗った産婆広告、「産婆看護婦会」の活動や産婆組合などに関する記事などを通じて、産婆たちの労働の姿や移動の様子を把握しようとした。特にその生活の変化や流れを捉えるために近代の大都市であった京城(ソウル)と釜山の活動に着目し、京城の産婆の状態を『京城日報』と『京城新報』を通じて京城の産婆を、釜山で刊行された『朝鮮時報』を中心に釜山における産婆の開業状況および産婆組合の状態を分析し、日本人産婆らの韓国都市部における生活及び社会活動を確認した。

## 4. 研究成果

植民地朝鮮期以前の韓半島に越境した日本人産婆の実態を明らかにし、東アジア近代史・衛生史における新しい知見を提示できた。その実態をより詳しく述べると以下の通りである。まず、日本人産婆は公使館設置の時期から招聘され、日本の産婆制度のもとで、韓半島で、少なくとも京城と釜山では営業していた。統監府期には、未開の朝鮮を文明に導き、国力を増進させるためという名目で同仁会による産婆派遣が確認できる。彼らの活動の基盤は、「医制」と「産婆規則」に基づき日本で取得した産婆免状と産婆名簿登録であった。しかし、彼らが正式に営業を届け出たのは1908年のことであり、それ以前は主に内職として認識されていたと考えられる。産婆数については、1906年に産婆が釜山に最も多かったが、統監府設置後、京城の日本人人口が急増し、産婆も京城に最も多くなり、群山以外の他の都市で産婆の数は人口増加の推移、そして女性数、出生数の推移とともに増減した。一方、産婆は家族と一緒に韓半島に居住する場合も多かった。当時産婆は、主に理事庁が設置されていた日本人社会で活動していたが、新聞から彼らが朝鮮人社会とも関係していたことが読み取れる。京城では、産婆看護婦会に所属して仕事を紹介されたり、自ら広告を出したりして、活路を切り開こうとしていた。京城で活動した産婆の収入はそれほど高くなかったが、女性の内職としては、裁縫などに比べて楽で良いと評価されていた。以上をまとめて、2023年に『Journal of Japanese History』へ「근대 일본인 산파의 한반도 월경(越境) 실태— 대한제국기를 중심으로 (近代日本人産婆の韓半島越境実態 大韓帝国期を中心に)」という題目の論文を掲載した。翌年1月6日には『The IAFOR The IICAH2024』で「The Crossing Borders of Modern Japanese Midwives to the Korean Peninsula Before Colonization」という題目で、研究発表を行った。さらに、同年5月25日には朝鮮史研究会関西支部にて「近代における日本人産婆の韓半島越境」という題目で発表

を行った。

植民地朝鮮における産婆活動の分析を通じて近代東アジア衛生史の中で女性衛生専門家の有り様を究明し、彼らの役割を植民地社会の中で位置づけた。特に京城という植民地朝鮮の大都市であり、産婆が最も多かった都市を中心に産婆活動を検討し、以下のような状況を把握できた。まず、植民地期を通じて朝鮮人産婆数は日本人産婆数を追い越すことはなく、それゆえ、日本人産婆は朝鮮人社会の出産の場にも介入していた。それは、そもそも植民地朝鮮の産婆規則の産婆免許は、すでに日本で産婆免許を取得し、産婆名簿に登録していた人なら申請さえすれば取得できたので、植民地期以前に進出していた日本人産婆に有利な規則であったためであった。また、朝鮮総督府医院の産婆養成所などの入学条件に「尋常小学校又八修業年限四年以上ノ普通学校ヲ卒業」と日本人対象の教育機関と朝鮮人対象の教育機関を併記されていることから読み取れるように、就学率が高い日本人女性が朝鮮人女性より産婆養成の機関に入学しやすい環境であったことも一つの理由であった。また、その最初段階から憲兵・巡査という地方の警察公務員の家族を産婆として養成することを目的として、各道の慈恵病院に「速成助産婦科」をも設置し産婆養成を図っていた。以上の成果については、2022年、植民地朝鮮で活動していた日本人産婆研究の土台として、まずは植民地朝鮮の朝鮮人産婆の労働環境に着目して整理した論文を『Journal of Japanese History』(「新聞記事を通じて見た植民地期朝鮮人産婆の労働環境と社会的位置 1920年代都市京城産婆を中心に」)へ掲載できた。翌年には『コリアンスタディーキャンプ2023』で研究発表を行った。そして、7月10日には『AAS-in-Asia』で「Life Under Control: Biopolitics, Gender, and Desires in Japan's Dual Colonial Experiences」セッションのパネルとして、植民地朝鮮の日本人産婆について発表する予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Ho So-Yeon, The Korean Association For Japanese History	4. 巻 59
2. 論文標題 Labor Environment and Social Position of Korean Midwives in the Colonial Era: Focusing on the Gyeongseong in the 1920s	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 The Korean Association For Japanese History	6. 最初と最後の頁 321 ~ 356
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24939/KJH.2022.12.59.321	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ho So-Yeon, The Korean Association For Japanese History	4. 巻 61
2. 論文標題 The Crossing-border of Modern Japanese midwives to the Korean Peninsula: Focusing on The Korean Empire Era	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 The Korean Association For Japanese History	6. 最初と最後の頁 83 ~ 119
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24939/KJH.2023.8.61.83	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 扈 素妍
2. 発表標題 近代日本人産婆の韓半島越境—統監府期を中心に（韓国語）
3. 学会等名 日本史学会（韓国）第106回月例発表会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 扈 素妍
2. 発表標題 植民地時代の朝鮮人産婆の労働環境と社会的地位-1920年代、都市京城の産婆を中心に-
3. 学会等名 朝鮮学会第73回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 扈 素妍
2. 発表標題 植民地朝鮮における産婆の労働実態と出産現場ー1920～30年代のメディアを通じてー
3. 学会等名 KCKS 京都コリア学コンソーシアム第69回研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 扈 素妍
2. 発表標題 植民地朝鮮の出産風習としての胎教と生政治 - 「優生学」言説を中心に -
3. 学会等名 朝鮮学会第72回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 扈 素妍
2. 発表標題 植民地朝鮮の「出産の場」における産婆と出産風習の葛藤 1920～30年代のメディアを通じて
3. 学会等名 コリアンスタディーキャンプ2023
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Ho Soyeon
2. 発表標題 The Crossing Borders of Modern Japanese Midwives to the Korean Peninsula Before Colonization
3. 学会等名 The IAFOR International Conference on Arts & Humanities in Hawaii The IICAH2024 (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 扈 素妍
2. 発表標題 近代における日本人産婆の韓半島越境
3. 学会等名 朝鮮史研究会関西部会5月例会
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------